

第25号 通巻第5巻第5号

1986年2月1日発行

守山市立埋蔵文化財センター

TEL 0775-85-4397

〒524-02

守山市服部町2250番地

はじめに

昭和61年を迎え、センター職員一同、新たな決意で早1ヶ月を過しました。

さて、年末は心強い陽差しの比較的暖かな日々でしたが、年が明けると一転し、厳寒の毎日が続いています。埋蔵文化財の発掘調査は勿論屋外調査であり最も障害が多く、作業の停滞しがちな時季です。幸いにこの寒さに見合う降雪はないのですが、発掘調査にとって、次第にぬかるんでくる凍土と寒風は大変厄介な代物です。

それでは、今号も12月から1月に実施された発掘調査を中心に、報告していきたいとおもいます。

発掘調査だより

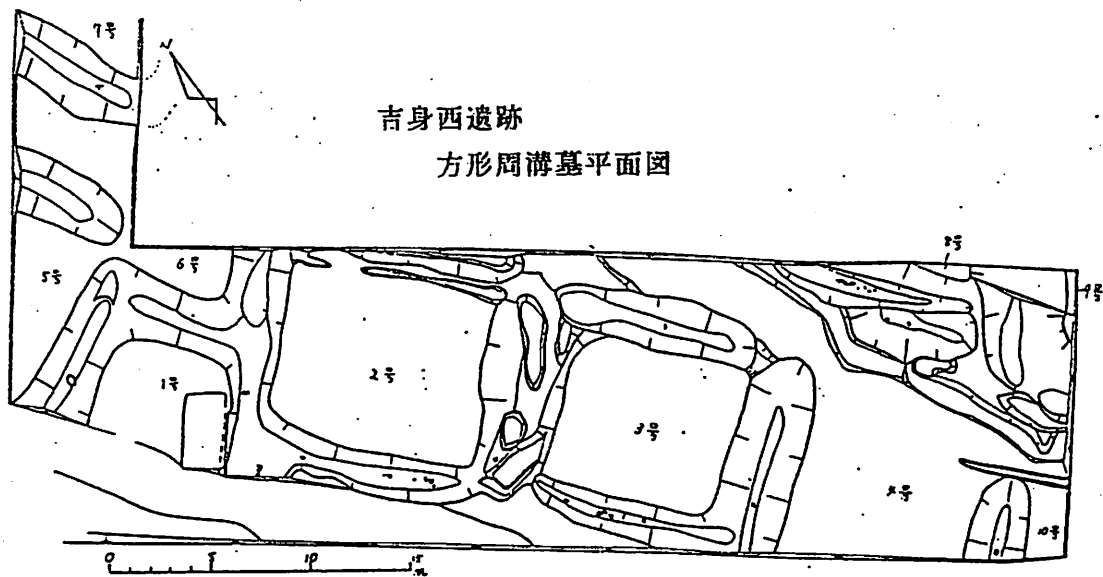
前号の「乙貞」の発掘調査だよりでお伝えしてから2ヶ月がたち、その間新たな調査を実施しております。継続調査を含め、下表のとおり9件を数えますが、そのうちいくつかを紹介したいとおもいます。

調査遺跡一覧表 (S.60.12~S.61.1)

遺跡名	所在地	調査時期	備考
1 横江遺跡	横江町	S58より継続	住宅地造成。前号で報告。
2 吉身西遺跡	守山町	10月より継続	土地区画整理。
3 吉身西遺跡	守山町	12月上旬	市民病院駐車場。古墳時代後期
4 吉身南遺跡	梅田町	12月上・中旬	駅地下道建設。
5 服部遺跡	服部町	12月上・中旬	住宅建設。弥生時代中期。
6 益須寺遺跡	吉身町	12月下旬	住宅建設。掘立柱建物。
7 下之郷遺跡	下之郷町	1月中・下旬	住宅建設。弥生時代後期。
8 下之郷遺跡	下之郷町	1月中・下旬	住宅建設。弥生時代後期。
9 下之郷遺跡	下之郷町	1月下旬	住宅建設。弥生時代中期。

2 吉身西遺跡

前号で報告して以後、新しい地点の調査を進めています。これまで成人病センターと守山警察所間の田畑を対象に区画整理事業が行なわれるのに先立って、道路予定地を調査していたのですが、12月から農林省滋賀食糧事務所の真東の位置で、道路予定地と河川改修計画地を合わせて、幅約14m、長さ約100mの範囲を調査中です。この地点では、これまで知られていなかった遺構として、弥生時代中期の方形周溝墓が発見されました。略図に示す通り8基以上の方形周溝墓が群集しており、守山市内でも珍しい形のもので、この墓は幅2~3m、深さ0.5~1.2m程のV字の溝を一边5~10mで四角形状に巡らせた構造をもつものです。この周溝と呼ぶまわりの溝のうち、特に南の辺の底ちかくに供献（死者にお供えした）土器が数多く出土しています。特に壺が多く、他に水差型土器がみられます。2号墓は4個体、3号墓は7個体も出土しています。あいにく後世の削平によって、本来、死者が埋められた墓坑（主体部）は残っていません。もともと、四周の溝を掘って、その土を内側の台状部に盛りあげたと思われるので、その高さは1~2m程度の高いものであったと思われる。また、溝を連結してつくるのは、この弥生時代中期のころの特徴で家族など血統で結ばれた関係の深い人々が相次いで同じ溝をつかって次々と造ったものと思われる。また、全面が墓ではなく、墓道のように考えられる残り地があります。



この近くでは弥生時代中期のムラの跡がみつかっておらず、墓域だけが発見されたので、今後、残る調査範囲でこの生活空間がみつければ、極めて貴重な発見であり、弥生時代の人々の生活の実態が究明できるものと考えられます。調査は2月末まで継続していますので、気軽にお越し下さい。

5 服部遺跡

今回の調査地は服部町集落北西辺の畑地に位置します。当地より西方100m たらずの距離に野洲川が伸びており、ここは昨秋の特別展「服部遺跡の調査をふりかえって」というテーマになった発掘調査地でもあり、縄文時代から中世に至る数々の遺構と多種多量の遺物がみつかっています。

さて前回の調査以来の調査という事で、約150㎡と狭小な調査面積にもかかわらず注目視されました。調査結果は耕作土下約1mの地点で溝、土坑を検出し、さらにその1.5m下の暗灰色の粘土層より弥生時代中期の多数の土器（壺、カメ、高坏など）が出土しました。下層の粘土層については、既調査地から続く大規模な溝、河道あるいは沼沢地の部分的な検出であると推測でき、改めて野洲川以東にもその分布が及ぶことが確認されたこととなります。

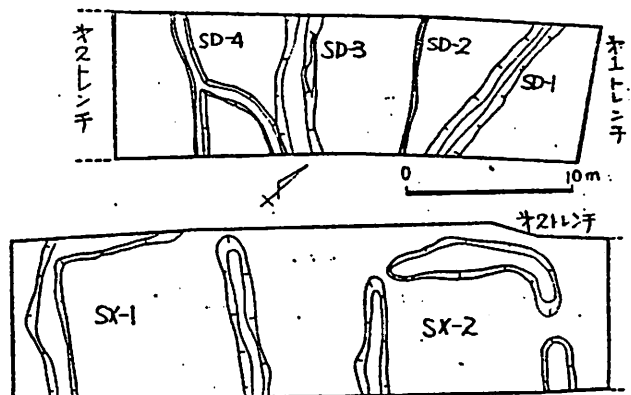
6 益須寺遺跡

国鉄東海道本線と県道栗東一大津線（琵琶湖大橋取付道路）の陸橋交叉点の東南側の岡町に所在するもので、住宅建築に先立ち、約60㎡を調査しました。ここからは、掘立柱建物1棟を検出したのですが、規模は2間以上×1間以上で全容を把握することはできません。構築時期についても明瞭ではなく、僅かに柱穴より出土する土器片から室町時代に構築されたものと考えています。

7・8・9 下之郷遺跡

下之郷遺跡では1月中下旬に3件の調査を実施しました。1件（9）は下之郷町集落南辺に位置するもので、弥生時代中期の遺構、遺物を検出しておりますが、近世の攪乱を受け、遺構については不明瞭な状況にとどま

下之郷遺跡遺構平面図



りました。他の2件(7・8)は県立小児整形外科センターから北方約100mの距離にあたり、都市計画道路沿いの水田地に位置しています。2件の調査地は隣接しており、継続して調査した結果、前ページ遺構図のとおり、方形周溝墓2基(SX-1・2)と溝4条(SD-1~4)を検出しました。2基の方形周溝墓は、当地の南東に伸びる都市計画道路建設の際にその一部が検出されており、調査前よりその存在を把握できたものです。この周溝墓、特にSX-1からは周囲を廻る溝底より、カメ、壺など多くの土器が出土しており、弥生時代後期に築造されたものと考えられる他、調査地を横方向に伸びるSD-1については、古墳時代前期に掘られた溝とおもわれます。

出土した土器については、3月に開催する第4回特別展に展示を予定しています。

吉身西遺跡現地説明会

前、今号で報告しています吉身西遺跡発掘調査の現地説明会が、去る1月25日(土)に開催されました。まるで冷蔵庫の中にいるような寒さにもかかわらず、良好な状態で見つかった弥生時代中期の方形周溝墓を前に、熱心にその説明に耳を傾けていました。70部用意した資料もすべてなくなるという嬉しい誤算もあり、関心の高さを再認識した次第です。今後も1回でも多く、このような機会をつくりたいと考えています。

文化財講座

昭和60年度文化財講座の5回目の講座が、去る1月11日(土)に当センター会議室で開かれました。今回は「埋蔵文化財の見方」というテーマで、小笠原好彦先生(滋賀大教授)に講演していただきましたが、埋蔵文化財というものを現状と今後の問題をおりませながらわかりやすく説明され、さらに最近旅されたヨーロッパ、特にイギリスにおける埋蔵文化財について、スライドを使ってのお話を受講者はもとより職員も興味深く見聞きしました。

後記

寒さ真っ只中という感のする今日今頃ですが、事務室を彩る数少ない冬の花カクタスがパステルカラーの花を咲かせています。そしてそのそばで無骨な枝振りをさらす梅の木にも大きくふくらむつぼみが見られ、春はもう真近かに来ています。

草木に春の息吹が映る頃、センターでは第4回特別展を開催いたします。その為にはつぼみのように、ひたすらその準備に余念がありません。馬耳東風